

笠原小学校の適正規模・適正配置に関するアンケート調査結果報告会
及び市長との懇談会 （概要）

平成 29 年 2 月 5 日（日曜日）14：00～ 笠原公民館

鴻巣市教育委員会

【市長の笠原小学校の適正配置についての考え方】

鴻巣市は現在人口 119,041 人です。全国的に人口は減少しています。本市でも 150 人、人口が減少しています。毎年 300 人自然に減少していますが転入者が 150 人あるため、トータルで 150 人の減少となっています。鴻巣市では転入超過ですが他市は転出超過となっています。

笠原地区の人口は 20 年前 3,300 人でした。毎年人口が減少していて今年の 1 月 1 日では、2,743 名となっています。人口を増加させるため、法律を変えて市街化調整区域を市街化区域に変更してほしいという意見がありますが、法律上それは無理です。では、他にどういった方法があるかということ 6 親等以内の親族は調整区域でも住宅を新築できますので、笠原から出て行っていかれた方たちが帰ってきていただけるような施策、たとえば、笠原は農業集落排水事業を実施し、インフラを整備して住みやすい環境を整えています。これからは、若い人たちが笠原に戻って来ていただけないかといった施策が必要であると考えています。

また、駅まで遠いということもありますので、フラワー号の路線を設置して対応しております。笠原地区には、いきいきスポーツクラブがあり、子どもたちのために、バスケットボール大会や陸上大会があるときには指導者を招いたり、芝生化した校庭の芝刈りをしていただいています。しかし、高齢化していて 80 代の方が活動していますが後継者がいません。笠原には他にも竹林公園等を地元の方たちが手入れをして住みやすい環境となるよう、また、憩いの場所となるようご尽力いただいておりますが、後継者がいないことは、今後問題になると考えております。地域に人が来てもらえるような土壌作りはできていると思います。そうしたなかで、これから笠原小学校に子どもが増えるかどうか、これは行政でどのようにしても難しい部分もあります。先ほど教育長からお話がありましたとおり、集団生活は大変重要であると考えております。結論が出ているわけではありませんが、多くの教育者がクラス替えが出来るくらいの子供生徒数は必要であろうと言っております。私もそう考えております。今後笠原小学校をどのようにしたらよいのか、保護者の皆さんに考えてもらいたいと思います。アンケート調査をしても結論はなかなか出ないと思いますが、

5年後には複式学級になってしまうこともあります。地域の皆さんの意見も重要ですが、笠原小学校に通学している皆さんの考え方が一番重要と考えております。適正化が良いのか、このまま学校を存続したほうが良いのか、時間がかかると思いますが考えていただきたいと思います。子どもたちがこのままで良いのかということをしつかりと議論していただきたいと思います。今後PTA活動などで議論していただき必要があれば私や教育長が会議に参加させていただいて議論させていただきたいと考えております。

【質問に対する市長の回答】 (主な質問・回答)

Q. 学校の統廃合について、どの程度を目途に考えているのか。
早急に統廃合等はないとのことだが、現状を教えてほしい。

A. 私は複式学級になる時には、適正化をしっかりと考えなければならないと思っている。平成33年頃には、一クラスが10人以下になってしまう可能性がある。その頃には考えなければと思うが、今、市では三世帯住宅取得補助金の施策も進めているので、その間に子育て世代の方が入ってくるような取組もしていきたい。

Q. 小学校が無くなった場合には、放課後児童クラブはどうになってしまうのか。
放課後児童クラブは、笠原に残るのか。

A. まだそこまでの検討はしていないが、万が一、学校がなくなることがあっても、子どもがいる限り放課後児童クラブは存続していくと考えている。放課後児童クラブは学校の傍にあるのが安全上便利であり、笠原小学校が存続するのであれば放課後児童クラブも存続し、適正配置ということになれば通う学校の傍に放課後児童クラブを設置するのが良いと考えている。

Q. 現状、笠原地区には家が建てられない状況で、鴻巣がどんなに便利になろうとも笠原地区には人が来ないということである。ということは、このまま笠原小学校はなくなる。コミュニティがなくなるという方向になると思うがどうか。

A. 50～70 歳代の方々に、少しでも身内の方に笠原に来てもらえるような協力をしてもらおう。今は、それしか方法がないと私は考えている。

Q. 他の小学校でも合併の話をしているかと思うが、他の小学校の保護者の方の賛成とか反対の意見はどのようなものか。

A. まだ具体的には説明会等はしていない。私も笠原小学校のOBとして非常に断腸の思いだが、笠原小学校が一番小さい学校なので、まず笠原小学校をどのようにしていったら良いかということでこのような場を設けた。今後、川里地域や吹上地域でも、このような場を設けて話し合いを進めたいと思う。

やはり、一番は中学校区をどうするか、どのように形を作っていくかが重要だと考えている。例えば、一つの学校になって、また中学校で分かれてしまうということも気の毒なことであり、それらのことも含めて全体的に考えながら進めたい。

Q. 笠原小学校を無くす、無くさないという計画は決まっていないとの事だが、本当にそうなのか。

A. 長期ビジョンの中で笠原小学校を廃校にするという計画は、全くない。5 年先、10 年先、市内の小中学校はそのままの形での運用を考えている。笠原小学校にも相当の修繕、環境整備をしており、校庭の芝生化や耐震化、エアコンの設置もしている。廃校ありきであれば、そのような投資はしない。廃校ありきと言うことは、私は一度も考えたことはない。ただ、現在の状況を皆さんに

認識してもらい、これからの笠原小のあり方を皆さんに議論してもらって、そして私どもに訴えてもらいたい。今の状況は良くないというのは、おおかたの教育関係者の意見である。少人数学級が良いというのは、大きな学校での少人数学級であって、100 人いる中での 20 人の学級を作るならば良いと思うが、20 人しかいないから少人数ということではない。今の状況は、私は良くないと考えている。財政上の問題からとか、国から言われているからとか、そういうことではない。今の笠原小学校の状況を皆さんに考えてもらいたい。そのようなことを皆さんにお願いしており、財源を少しでも削減したいという考えでお願いしている訳でない。

是非、皆さんにそのようなところを真剣に議論してもらって、今後の笠原小学校のあり方を考えてもらいたい。

Q. 笠原小学校の児童の保護者が全員笠原小学校を残してもらいたいとの意見であれば、人数が少なくても笠原小学校は残ると考えて良いのか。

A. 笠原小学校へこれから入学してくる児童の保護者の皆さんも含め、保護者の皆さんの意見が残してもらいたいとのことであれば、私が市長でいる限り、皆さんとそれはお約束する。皆さんがそれで良いという事であれば、私はそれで良いと思っている。ただ私自身はそれで本当に良いのかどうかということは、やはり多くの皆さん、これから小学校に入学される保護者の皆さんにも色々な形で聞いて、そのような中で全員の皆さんがこのまま行くと結論づければ、そのような形になるべきだと思っている。強制的に廃止をするということではない。